

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要（事業所記六）】

事業所番号	4290201443		
法人名	株式会社 ブドリ		
事業所名	グループホームゆたんぽ・喜笑 ユニットゆたんぽ		
所在地	長崎県佐世保市吉井町直谷1278-1		
自己評価作成日	令和元年9月24日	評価結果市町村受理日	令和元年12月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和元年11月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・個々の持つ能力に合わせた介護支援に取り組み、個々の変化、経過について職員間で常に話し合いを行っております。
・ご利用者様同士の繋がりも重要と捉え、関係性も重視した取り組みを行っております。
・ご利用者様が安心して暮らすことができる家庭的な雰囲気のあるホームづくりに努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは今年度代表者の交代により社名変更したが、ホーム名や理念、職員も変わることなく、創設者の思いを引き継いでいる。開設から20年が経ち、中学生の職場体験や住民が介護相談に訪れるなど信頼が深まっている。職員は理念の「利用者の能力を最大限に発揮できるように」を支援の柱として、日々取り組んでいる。利用者の力を把握し、時間がかかっても出来るところは自分で頑張ってもらっている。無理強いしない役割分担は、利用者の生活の張り合いになっている。また、職員と一緒に調理したり、庭に出ての水まきや草取りを楽しむ他、居室のソファで読書するなど自由な暮らしが窺え、利用者の穏やかな表情に繋がっている。更に利用者の希望に沿って職員や家族との外出の支援が多いことは、特筆すべき点である。職員のチームワークも良く、更なるサービス向上が期待できるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者の能力を最大限に発揮できるように努力している	利用者が力を最大限に発揮し、地域の一員として生活できるように支援することが、ホーム理念である。利用者が得意なこと、できることは時間がかかっても見守り待つ姿勢で、力の維持に努めている。管理者と職員は、その理念を共有し日々の暮らしの基本として、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入している。神社への奉納にてお餅を持って来られたり、地域のお店に買い物に行ったり、散歩等で交流している	町内会に加入している。清掃活動に参加したり、地域の祭りやイベントに利用者と見学に出掛けたり、食材も地元の商店を利用し交流を強めている。近所住民から野菜や季節物の差し入れも多い。中学生の職場体験や住民から認知症の相談があるなど地域への信頼を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事に参加し、交流を図っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族や民生委員の方、地域包括支援センター職員の方々に参加していただき、報告や話し合い、意見をいただき、サービス向上に活かしている	奇数月に規定の参加者で開催している。ホームの状況や取り組みの報告、質問や意見交換、各委員からの情報交換など会議内容の詳細な議事録がある。家族の提案で運営推進会議の理解を深めるため運営委員の家族代表を1年交代にするなど反映がある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要時には直接、出向いたり、電話で情報交換等を行い、関係を築くようにしている	介護保険の更新や区分変更時に、支所の窓口利用者同伴で出向いたり、急ぎの場合は電話で相談したり、行政に出向くこともある。福祉課職員の訪問もあり情報交換を行っている。また、市から案内のある研修は、職員交代で受講するなど協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修、講習会への参加。社内研修にて理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。身体的拘束適正化検討委員会を3ヶ月に1回開催しており、再度、認識するように努めている	外部研修の受講や定期的に内部研修を行い、身体拘束の具体例について職員が意見を出し合うなど理解を深めている。日中は玄関の施錠も無く、利用者が自由に出入りしており、職員がさりげなく見守りを行っている。言葉での制止にも気配りし、身体拘束のないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修、講習会への参加にて学ぶ機会を得ており、虐待が見過ごされることがないように注意し、防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修や講習会への参加を行っている。他のユニットでは実際に制度を利用されている利用者もいる		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際は十分な説明を行い同意をいただくようにしている。改定の際は家族への説明を行い理解、納得をいただくようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族が気兼ねなく話ができるような雰囲気づくりを心がけている	家族の訪問時や電話で、要望等を聞くことが殆どである。職員に何でも気軽に話してもらえよう配慮し、信頼関係を築くよう努めている。毎月の写真満載のホーム便りは日常の暮らしぶりが把握できると家族等が楽しみにしており、敬老会は利用者、家族同士が親睦を深める一大イベントとなっており、遠方の家族も参加している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニットごとのスタッフ会議にての意見、管理者会議を含め、必要に応じては随時、代表に届け、反映させている。(設備や人事異動なども含む)	申し送り時やスタッフ会議で、職員が活発な意見を出し合っており、支援方法の提案や最新式の加湿器の購入など反映した事例がある。職員の意見は管理者から代表者に伝えられ、職員が年2回自己評価を行い代表者との面談も年1回ある。シフト変更や希望休も職員間で相談しスムーズに取れ、働きやすい職場環境である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の性格や得意分野に目を向けて、責任とやりがいを持てるように努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修、講習、講演会への参加の機会を与えており力量によって受講を勧めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会、地域ケア会議や研修等への参加にて交流を図っている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日頃より本人が、今、困っていること不安と 思っていることなど感知するように努めており、 安心を得られるよう関係作りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	穏やかで家庭的な雰囲気作りを心がけること で信頼関係を築けるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」 まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要とする支援を見極めるためにも話しやすい 雰囲気づくりを行い、日頃の様子も伺いながら 意見を反省させている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしを共にする関係は築けている。共に作業を行ったり 教えてもらいながらの家事作業もある		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族による外出支援、必要時には病院の付き添い等、共に本人を支えていく関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容室への外出支援を行っている。外出の際、家の付近を通ることもある。知人の面会も気兼ねなく来所できるよう対応している。	近くの商店への買い物、行きつけの美容院など馴染みの場所へ個別支援を行っている。ドライブ途中に自宅近所を通り、商店の馴染み人と会話することもある。家族等の協力も多く、外泊、外食や車椅子を貸し出し、寺や教会へ外出する利用者もあり、馴染みの関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性格や個々の能力を把握し支えあえるような関係作りに努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設や入院された場合には面会に行っている。家族へも相談事があったら気兼ねなく電話いただくよう伝えている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	声かけ、会話の中で本人の意向や希望に沿うように努めてる	利用者が発する日常の何気ない一言も確実に聞き取り、新しい情報は生活記録に記し、職員間で情報を共有している。難聴の場合は耳元でゆっくりと話し、会話が困難な場合はジェスチャーや表情から汲み取る他、家族等に相談して、できるだけ本人の思いに沿えるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、又、以前サービスを受けらたところなどより話を聞き把握に努めてる		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察・見守りにて得た情報を共有し、誰もが現状を把握するように努めてる		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族、又、以前サービスを受けらたところなどより話を聞き把握に努めてる。関係者と話し合い意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用開始時の暫定プランは2週間で見直し、長期1年、短期6ヶ月の計画を立てている。支援状況を毎日、ケアプラン実施記録簿に記載し、職員による毎月のモニタリング、ケアカンファレンス、3ヶ月毎のサービス担当者会議を経て、3ヶ月毎に見直しを行っている。家族や本人の要望を改めて聞き取り、現状に合った計画作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に応じた記録を毎日、記入し見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々に対応した支援、サービスの多機能化に取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要に応じボランティア等の地域資源を活用し、また協力しながら支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	緊急時に対応していただける協力医療機関があり定期的に訪問診療をしていただいている。また、本人、家族の希望に応じてかかりつけ医の受診の支援を行っている	かかりつけ医は家族や本人の意向に沿って決めている。受診は職員の同行支援が基本だが、状況により家族同行もある。受診結果はお互いに報告し、受診記録へ記載、職員で共有している。更に2週間に1回の訪問診療、月4回の訪問看護がある。夜間緊急時の医療連携も整備しており、職員は緊急時の対応を理解している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約を結んでおり訪問看護が週に1回、利用者のバイタルチェック等を行っている。その際、身体の変化や気づきを伝え相談している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	面会に行き、又、電話にて情報交換を行っている。かかりつけ医と普段より相談し、そうした場合に備えての関係作りを行なっている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合における指針や看取りに関する指針に沿って支援している	重度化や看取りの指針は明文化し、契約時に家族へ説明し、同意の署名を得ている。ホームは医療行為を伴わない看取りは行う方針であるが、家族は病院への希望が多く、看取りの事例は無い。職員の看取りに関する研修は、看取り支援の利用者毎に行うこととしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	随時、救命講習を受講している。社内研修にて、発生時の初期対応の研修を行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	年に2回、消防訓練を行っている。そのうち、1回は消防署の指導を受けている。自主監査にて毎日チェックしている。また、非常災害時避難訓練も行っている。	火災避難訓練を年2回、内1回は消防署立会いで行い、非常災害時避難訓練を1回実施し、全職員が訓練に参加している。毎日の自主点検や備蓄や非常持ち出し品を整備し、ホーム近辺の住民からは協力の約束を得ている。ホームは災害時避難訓練を年4回行うとしているが、火災避難訓練は年2回であり、夜間想定はこれからである。	職員が不安なく避難誘導できるように、火災や自然災害避難訓練の回数増や夜間想定の実施を期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけや会話での言葉遣いなど十分に注意、配慮しているが、職員間での気づきに反省や見直しを行っている	職員は排泄や入浴介助時には利用者の羞恥心やプライバシーに配慮し、呼びかけは苗字にさん付けなど人格を尊重した支援を心掛けている。個人情報や写真の取り扱いは、契約時に同意の署名を得ている。また、書類の保管場所も適切である。職員は採用時に守秘義務の誓約書を提出し理解している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示、自己決定ができるような声かけや言葉選びをするように努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	状況によっては安全性を優先して職員のペースになることもあるが、一人ひとりのペースを大切にしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服の購入時やその着用する服を一緒に選んだり馴染みの美容室に行けるよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの能力に合わせた準備を行っている。好みや何を欲しているか問いかけを行っている	献立はその日の担当職員が、利用者の希望や食材を基に決め、調理している。利用者は野菜の皮むきや下ごしらえなど出来る部分を手伝っている。ラーメン流しや行事食、誕生会の希望の刺身、スイーツドライブなど、職員は利用者が食べたいものを食べて貰いたいと希望に応じている。また、アレルギーや嚥下の状況に対応している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日を通して確保できるよう支援しており、状態に応じた支援を行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状況に応じた声かけや見守り、準備、清潔保持の支援を行っている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを個々に見極め、排泄の声かけや誘導を行い排泄の自立に向けた支援を行っている	日中はトイレでの座位排泄を基本としている。排泄チェック表を基に利用者の排泄リズムを把握、共有し、声掛け誘導を行っている。職員は排泄の自立支援を理解し、改善に向けた検討を行い、おむつからリハビリパンツ、リハビリパンツから布パンツなどへ改善した事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排泄状態を把握し飲食物の工夫にて便秘予防に取り組んでいる。必要に応じ、服薬にてコントロールも行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	あらかじめ、入浴日程を予定しているが体調や希望に対応できるように努めている	入浴は週3回を基本としている。利用者の体調や気分により入浴できない場合は、時間や日を変更し支援を行っている。車椅子の利用者も2～3人介助で浴槽へ浸っている。また、仲の良い利用者同士一緒に入浴することもある。希望により同性介助に対応するなど、本人が気持ちのよい入浴支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は本人に合わせてあり、状況や本人希望により、自室で休息していただいている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の記録に薬の処方を記録しており、変更も伝達している。服薬の支援を確実にを行い症状の変化の情報共有を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を把握し、個人の力を活かした支援を行っている。気分転換等を図り外出や散歩も取り組んでいる		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や外気浴、文化祭やおくんち見学等、外出支援を行っている	季節毎の花見や地域のイベントなど、計画を立て、車椅子の利用者も一緒に出掛けている。その日の本人の気分ドライブやコンビニ、スーパーへ一緒に買い物に出掛けており、希望に沿った個別の外出が多い。また、家族支援の外出が多いのも特徴である。散歩や外気浴など車椅子の利用者も含め積極的に外出支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理ができる方は所持され使えるように支援している。希望や力に応じ使えるように支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の状態に応じて電話をかける機会の支援をしており、手紙のやり取りができるよう支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔に努め、季節の花を飾ったり、浴室、脱衣室の温度差にも気をつけている	玄関には季節の花が活けてあり、程よい採光のリビングは、利用者全員がゆっくり寛げるソファや椅子にて、テレビ鑑賞や読書など自由に過ごしている様子が窺える。キッチンで利用者も一緒に調理している様子は、音や匂いと共に家庭的な雰囲気である。毎朝、職員が掃除や換気、室温管理を行い清潔で居心地のよい空間作りに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの中心に全員のソファを配置している。食卓、玄関に椅子を配置しており、自由に行き来きされ、思い思いに過ごしていただいている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や家具を使用していただき愛着のある物を飾ってもらい居心地良く過ごせるように支援している	居室への持ち込みは自由で、ベッドは自宅からの持ち込みやレンタルである。タンス類、ソファや椅子を持ち込み過ごしやすいように配置している。仏壇やマリア像、日本人形、家族の写真など馴染みの品々に囲まれ、読書や日光浴と寛げる個性のある居室である。掃除機やモップ掛けを職員と一緒に利用する利用者もあり、清潔を保持している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室に名札、トイレは大きく表示している。又、床にテープを張り、通路をわかりやすくし、それを利用されている。手すりを設置しており、安全かつ自立した生活ができるよう工夫している		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要（事業所記入）】			
事業所番号	4290201443		
法人名	株式会社 ブドリ		
事業所名	グループホームゆたんぽ・喜笑 ユニット喜笑		
所在地	長崎県佐世保市吉井町直谷1278-1		
自己評価作成日	令和元年9月23日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個々の持つ能力に合わせた介護支援に取り組んでいます。その人らしく、当事業所で役割を持ち、楽しみを持ち、生き活きとした笑顔と喜びのあるホーム生活が送れるよう支援しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

グループホームゆたんぼ・喜笑 ユニット喜笑
自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は理念を共有し、更に、理念に基づいたケアの具体的な話し合いのもと、実践につなげている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の清掃に参加したり、買い物に出かけたりしている。ご近所より農作物をいただいたりし、交流を図っている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の職場体験の受け入れにより、理解や支援の方法を活かしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	報告、話し合いを行っている。意見をいただいた時は事業所として話し合いを行い解決の方へ進めている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	直接、出向いたり、電話で相談等を行っている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしない取り組みを行っている。正しく理解するため、勉強会を行っており、会議でも取り上げ、話し合う機会を設けている。更に、3ヶ月毎に開催している身体的拘束適正化検討委員会でも話し合う機会を設けている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員が学ぶ機会をもち、虐待が見過ごされることがないように注意を払っており、職員全員が防止に努めている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会でも取り上げ、制度の理解を深めている。知識を持っている者が話をする機会をもち、個々の必要性を関係者と話し合い、活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族や利用者に十分な説明を行っている。不安や疑問点を尋ね、理解と納得を得るようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、要望を尋ねる機会がある。話されやすい雰囲気づくりを行っており、意見箱も設置している		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や提案を管理者会議にて話し合い、代表者に届けており、直接、話す機会も設けている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるよう職場環境、条件の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内外の研修を受ける機会の確保や働きながらトレーニングしていくことを進めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会での研修や他の研修にて交流を図り、情報交換も行って、サービスの質を向上させていく取り組みを行っている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾け、奥に隠されている部分も引き出せるよう努力し、安心を得られるよう関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	困っていることや不安なこと要望等に耳を傾け、当事業の雰囲気も感じてもらい、笑顔で接し、良い関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要とするサービスを見極める為にも、本人、家族より、より多くの情報を得るようにしており、話しやすい雰囲気づくりも行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支え、支えられる関係で、お互いに学び、暮らしを共にするもの同士の関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時、又は電話連絡、ホーム便りにて、日常生活の状況を報告し、必要に応じ、買い物等の支援を頂き、つながりを大切にしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容室への外出支援を行っている。外出の際には、馴染みのある地域を通ったり、その目的にてドライブしたり、買い物支援も行っている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性格や趣味、又、能力を把握し、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談事があれば、いつでもと伝えてある。他の施設や入院された場合には面会に行っており、関係性を大切に思っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の中で、会話や話しかけにより、本人の意向や希望を把握するように努めている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、以前にサービスを受けられていたところより、聞き取り、これまでの暮らしの把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中で、日々、観察を行い、職員間で情報を共有し、現状を把握するように努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個人の介護記録より、本人に現況を把握し、意見やアイデアを反映できるよう努め、本人がより良く暮らすための介護計画作成を行っている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に応じた記録を毎日記入し、実践や見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々に対応した支援、サービスの多機能化に取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議などで地域資源の新しい情報を得るようにしており、必要に応じ、協働し、支えて暮らしを楽しむことができるよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望を大切にし、新しい病院先でも事業所との関係を築くように行っており、適切な医療を受けられるよう支援している		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションを契約を結んでいる。週に1回、利用者のバイタルチェック等を行っている。変化や気付いたことを相談し、助言もいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	安心して治療ができるように病院関係者との情報交換や相談を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合における指針や看取りに関する指針に沿って支援している		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習を全ての職員が受講しており、定期的に再受講も行っている。勉強会でも取り上げ、実践力を身に付けている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	年2回の火災訓練により、避難訓練、消火、通報訓練を行っている。また、災害での避難場所への避難訓練も行っている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の気持ちを大切に考えた声かけや対応をしている。納得され、自己決定しやすい対応を心がけている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ゆったりと対話する機会を設け、その中で思いや希望を聞くことができおり、自己決定できるような声かけを行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	休みたいや外出したい、好きなことをしたいなど、一人ひとりペースや希望を天候や体調を見計らいながら支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行事や外出の化粧や外出着におしゃれを楽しんでいただけるよう支援している。髪型や普段の身だしなみにも心がけている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みを伺ったり、食べたい物を尋ねたりして、皮むきや調理、洗い物など、能力やその日の気分を考えてみて一緒に行っている。又、誕生日やイベント料理で目先の変わった食事にて大変喜ばれている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに応じた形態や量が摂れるよう支援しており、状態変化も職員間で把握し、バランスよく提供できるよう支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりに応じた口腔ケアの支援を行っている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を大切に考え、声かけや介助をし、自立に向けた支援を行っている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の工夫を行っている。個々に応じた予防に取り組む話し合いを行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	健康状態や希望に沿って入浴できるよう支援している		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりに合わせた就寝時間で、好きなテレビ番組等がある時など時間に変更もあり、日中、なるべく活動していただき、空調にも気を配り気持ちよく眠れるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬について理解しており、変更の際には職員間で話し合い、変化等の情報の共有を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事手伝い、作業手伝い、パズル、編み物や音楽視聴又、気分転換の散歩、ドライブ、買い物と多岐に亘り一人ひとりの支援を行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に沿って外食や外出の支援をしている。墓参りも行った。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	今は管理できる方がいないが、使用することができる支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	はがきを出されたり、自ら電話をすることができるよう支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明や採光、室温、風当たり等、十分に配慮している。野草、花などで季節感を味わってもらい居心地よく過ごせるような工夫をしている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関にソファを配置しており、そのソファや外景色の見える所やテーブル席で独りになり好きなように過ごされている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人と家族と相談し、使い慣れた物や好みの物を配置してあり、本人の気持ちがよく安堵される居室空間であるよう工夫している		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、トイレは名札を表示してあり、ベッドやトイレ、ホールに手すりを配置し、夜間ポータブルトイレも使用し、自立を支援している		